

# 2023年活動報告書

三輪眞弘 / 教授

## 今年の活動

創設以来勤めてきたIAMASでの最終年度は、同僚たちから僕への贈り物とも言える、岐阜県美術館と共催した『IAMAS ARTIST FILE #09 〈方法主義芸術〉—規則・解釈・(反)身体』展及び、IAMASで開催された『岐阜おおがきビエンナーレ2023 〈方法/Method〉』がタイムベースドメディア・プロジェクトを中心として企画、開催され、特に2000初頭の方法主義運動時代の創作活動や作品が紹介、展示された。その一方でサントリーホール サマーフェスティバル 2023 ザ・プロデューサー・シリーズ企画において今年のプロデューサーを依頼され、「三輪眞弘がひらくありえるかもしれない、ガムラン」と題して、大ホールでの委嘱新作初演のコンサートをを含む3日間に渡るイベントを企画した。



三輪眞弘がひらくありえるかもしれない、ガムラン [En-gawa] 8/25 ブルーローズホール

## 学外の活動

### 作品発表

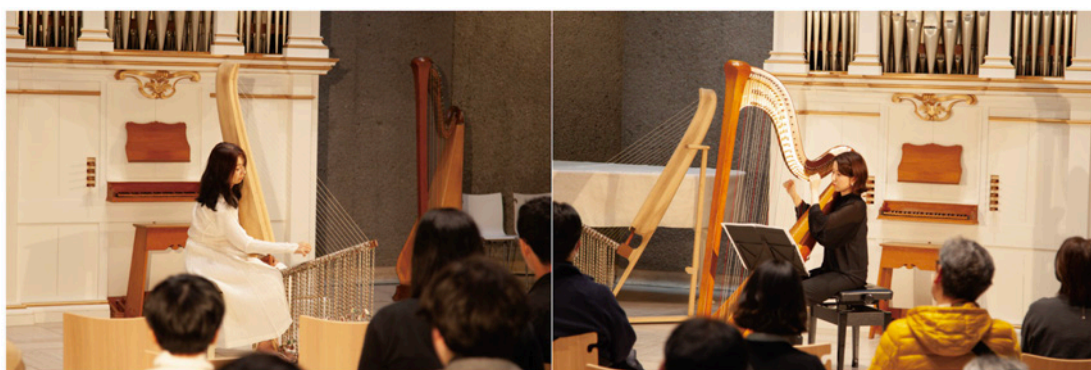
- ・ 1/28 横浜みなとみらいホールJust Composed 2023 Winter in Yokohama—現代作曲家シリーズ「驚異の声、驚異の言葉」で「火の鎌鼬」再演。指揮：西川竜太 声楽アンサンブル：ヴォクスマーナ
- ・ 2/11 - KAAT 神奈川芸術劇場、エルフリーデ・イエリネク作、三浦基演出、劇団地点『騒音。見ているのに見えない。見えなくても見ている！』初演の音楽監督を担当

- ・ 3/5 東京タワー文化フェスティバルVIで「虹機械 公案-001」再演。山内敦子(ピアノ)
- ・ 8/25 - 27 ザ・プロデューサー・シリーズ 三輪眞弘がひらく ありえるかもしれない、ガムラン プロジェクト型コンサート En-gawa (ブルーローズホール)  
改造されたThinking Machineによる「時報」、映像と演奏家による「修行」、鶏人間と鶏のケチャによる「礼拝」を発表
- 8/27 ザ・プロデューサー・シリーズ 三輪眞弘がひらく ありえるかもしれない、ガムラン Music in the Universe (大ホール)  
ホセ・マセダ作品の再演及び4人の日本人作曲家たちによる委嘱新作初演



© Naoya Ikegami / SUNTORY HALL

- ・ 宮内康乃：『SinRa』（2023）[世界初演] サントリーホール、大ホール
- ・ 11/22 京都芸術センター、谷口かなファーストソロリサイタルで新作、一台のグンデルによる「呪い（まじない）ツイッター」初演
- ・ 12/3 ケルン、GIMIK クラーレンス・バルロー追悼 COMPUTING MUSIC XIII で一台のグンデルによる「呪い（まじない）ツイッター」無人演奏版初演
- ・ 12/9 箏篋のための「蝉の法」、ハープのための「すべての時間」を再演（岐阜おおがきビエンナーレ）



東野珠実による、箏篋のための「蝉の法」 福井麻衣による、ハープのための「すべての時間」（岐阜県美術館）

**講演、その他**

8/25、26 ナイトプログラム「ガムラン・アSEMBリー」ザ・プロデューサー・シリーズ 三輪真弘がひらく ありえるかもしれない、ガムラン 第一夜、第二夜 (サントリー・ブルーローズホール)



岐阜おおがきビエンナーレ 2023 〈方法/Method〉

12/8 鼎談 岡田暁生 × 三輪真弘 × 吉岡洋 「真理と方法、再び」

モデレータ：大久保美紀

12/9 三輪真弘作品の再演コンサート・トークイベント (岐阜県美術館) 対談 三輪真弘 × 岡田暁生

12/10 方法マシン同窓会「来れ、集え、マシンとなれ〜！」

登壇者：三輪真弘、池田拓実、さかいいいしう、圍羽山圍、安野太郎 モデレータ：大久保美紀

12/23 Interference, Resonance: 京都市京セラ美術館

100 KEYBOARDS Moire Resonance by Interference Frequency by ASUNA アフタートークに登壇

**社会的活動**

- ・ 先端芸術音楽創作学会インターカレッジ・ソニックアーツ・フェスティバル運営委員
- ・ 清流の国ぎふ芸術祭 Art Award IN THE CUBE 2023企画委員
- ・ 日本作曲家協議会理事
- ・ 日本電子音楽協会理事

**パブリケーション****配信：**

7/21 SUPER DOMMUNE

『三輪真弘がひらく「ありえるかもしれない、ガムラン」』

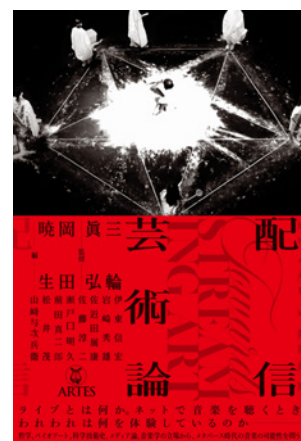
出演者：三輪真弘、中川真・大井卓也 (マルガサリ)、北澤潤 (KITA)、宇川直宏 (DOMMUNE)

**出版：**

10/25 三輪真弘監修 岡田暁生編 『配信芸術論』

四六判・並製 | 336頁

ISBN 978-4-86559-282-5 C1073





**新聞・雑誌：**

7/21 「ガムランの人間味 触れて」読売新聞記事

8/6 「コンピューターX人の芸術を」毎日新聞記事

11/1 『ユリイカ』2023年12月臨時増刊号 総特集＝坂本龍一 1952-2023

「それだけではない——現代社会の芸術家」を寄稿

11/20 『ステレオ』に『配信芸術論』の書評掲載

11/29 「音楽は奉納 演奏に意味」中日新聞記事

12/22 『intoxicate』で『配信芸術論』紹介

12/25 『サウンド&レコーディング・マガジン』に『配信芸術論』の書評掲載

2024. 1/20毎日新聞に『配信芸術論』の書評掲載

(他多数)

---

**学内での活動**

- ・ プロジェクト：タイムベースドメディア・プロジェクト代表
- ・ 担当授業：メディア表現特論A、特別研究（作品制作、論文指導）
- ・ 個人プロジェクト：フェスティバル企画プロデュース、作曲、執筆ほか
- ・ 学内での役割：各委員をなんとか努めた

以上